

San-iku 通信



社会福祉法人
賛育会

ご自由にお持ちください。

2018 WINTER

16

Vol.

社会福祉法人 賛育会 広報誌
さんいく通信

New!

特集

豊野事業所

肺炎 ～肺炎と風邪は違います。～
健康でおいしく ～イチゴのフレッシュサラダ
賛育会ヒストリー ～第四章 第四話

表紙写真:豊野事業所

つながろう、ひとつに。
ひろげよう、笑顔を。

100th
ANNIVERSARY
地域とともに100周年



佐々木医師の講演会の1コマ



大学生ボランティアの皆さん

特集

豊野事業所

何かをしようとする力は、誰にでもある。
 地域の方や利用者から、その力を引き出したい。
 ～多様性を認め合うほど、将来の彩りはゆたかになる～



バンド演奏に聴き入る利用者

豊野事業所は、長野県長野市の北部に位置します。長野市は「善光寺さん」で有名な門前町ですが、この長野市豊野地区は葛飾北斎と栗で有名な小布施町に隣接し、窓からは志賀高原など上信国境の山々を見渡すことができます。この地の名産は「りんご」です。秋から初冬にかけては、たわわに実るりんごに圧倒されます。

この地で70年あまりの歴史を刻んでいる豊野事業所で紹介したいのは、働く職員が「粒ぞろいというより、粒違い」の集団であるということ。それぞれが個性を活かして、様々な領域で利用者サービスや、地域との交流の中から新たな活動を生み出しています。

先日、長野市民新聞に『「豊野体操」で健康増進を』という見出しが一面を飾りました。

この体操は地域のボランティア団体が中心になって発案されましたが、体操の振り付けの中心になったのが賛育会の女性職員です。今後地域の中で普及するためのお手伝いも担っていきます。

地域の住民や事業所、学校のために「出前講座」を用意し、中学生からお年寄りの皆様に幅広く活用いただいています。この事業所の職員が持つ専門的な知識や技能を地域のために還元し活用していただくとともに、賛育会をより多くの住民に知っていただく機会となっています。今年度は元気な高齢者を中心とした住民を対象にした「賛育会いきいき塾」を月に1回開催し、住民との交流やいきがいつくりのための活動を始

めました。

隣接する中学校や地域の専門学校からのボランティア活動や職場体験も積極的に受け入れ、事業所や福祉の仕事をより身近に感じていただけるように、事業所の持つ機能を広く活かしています。

その他、地域イベントへの医療相談ブースの出展や、介護予防のための講座にリハビリ職員や管理栄養士などの職員を派遣、開催に協力する取組によって、住民に対する「賛育会」に親近感を覚えていただく機会としています。

また特別養護老人ホームや老人保健施設に入所されている利用者の家族に対しても、様々な取組をおこなっています。豊野清風園では家族とともに「看取り」について考えるパープルカフェの取組、ゆたかのでも今年度から家族に老人保健施設の機能についてより理解を深めていただく家族会を実施して好評を得ています。

こうした取組によって、ボランティアの申し出が増え、賛育会まつりに多くの皆様が来場し互いに笑顔になれる交流が盛んになってきており、私たちの日々の活動の励みにもなっています。

社会の様々な課題に対して「役に立ちたい」と考えている人たちに対して、活動の場を提供し、また職員と地域の皆さんが様々な人を想い、ひとりひとりの立場や気持ちに寄り添いながら、地域を良くする、そんな活動を豊野事業所は目指しています。

職員が手を携え、地域と連帯するためのネットワークを育て活用することによって、地域の中で「本当に必要とされる存在」として、豊野地域の福祉と医療を支えていきます。



米と水にこだわった豊野の銘酒「大信州」

大信州酒造は創業1888年(明治21年)に遡る由緒ある酒蔵です。常務の田中さんは、2年前に酒米を「山田錦」から、県内の三箇所とれる「ひとこごち、金紋錦」に変更しました。これは田中さんが見込んだ生産者と日本一のお酒を共に作り上げようという一心より始めた挑戦です。因みにお勧めは、「大信州超辛口純米吟醸」です。



■店名 大信州酒造株式会社 ■住所 長野市豊野町浅野772-2 ■電話 026-257-3472

知っ得! ケア

肺炎

～肺炎と風邪は違います。～



肺炎の主な症状は、発熱、咳、たん、息苦しさ、胸の痛みなどで、風邪とよく似ており、症状から見分けるのは困難ですが、肺炎と風邪は違います。

風邪は鼻や喉といった上気道や気管支の炎症であるのに対して、肺炎は肺の中の肺胞という部位に炎症が起きます。

肺炎は症状が長引き、風邪の症状よりも重いのが特徴です。放っておくと重症化しやすく、入院加療が必要になることがあります。

息が浅くなる、呼吸が速い、ぐったりする、食欲が無いなどは、気づきにくい症状のため、肺炎と気づかないまま悪化させることがあります。“風邪だと思っていたら、肺炎になっていた”ということがないように、こうした症状や風邪が長引いたり、高熱や激しい咳が3日～4日続いたら、肺炎を疑って、すぐに医療機関を受診しましょう。

肺炎は日本人の死因の中で、癌・心疾患に続いて第3位となり、肺炎で亡くなる方は、年間で約12万人に達します。その内の9割程が65歳以上です。超高齢社会を迎えた日本では、肺炎予防の重要性が増しています。肺炎にかからないためにはワクチン接種などの予防対策が重要です。



おかずレシビ

イチゴのフレッシュサラダ

～イチゴは風邪予防のビタミンCがたっぷり！
美肌作りやストレス解消にも効果的です～

■材料(2人分)

【具材】	【ドレッシング】
いちご 7個	オリーブ油 大1
アボガド 1個	レモン汁 小2
モッツアレラチーズ 40g	バルサミコ酢 小1
くるみ 15g	塩 少々
ベビーリーフ 20g	コショウ 少々

■作り方

1. クルミを袋に入れて棒などで叩く。
2. いちご、アボカド、モッツアレラチーズ、ベビーリーフを食べやすい大きさに切る。
3. 材料をドレッシングで和え、砕いたクルミをかける。

(レシピ提供:東海清風園 管理栄養士 岡本麻衣)

賛育会ヒストリー

賛育会の歴史物語

第四章 賛育会とその時の日本

第四話 昭和から平成へ

バブル景気から介護保険制度を導入した頃の日本は…

バブル景気から平成不況、社会保障制度の改革のあった時代。それは、どのような時代だったのでしょうか。

1980年代、バブル景気に日本中が沸きます。やがてバブルは弾け、時代が平成へと移った頃には平成不況を迎え、就職氷河期、金融機関の不良債権問題など、日本経済は低迷期にはいりました。また、社会保障費の増大に対応するため、2000(平成12)年には「措置から契約へ」の声の下に介護保険制度が始まりました。

生活面では、国鉄からJRへの分割民営化や消費税3%の導入など、まだ記憶に新しい変化が起きる一方で、クウェートの湾岸戦争、ソビエト連邦の崩壊、そして阪神淡路大震災と、自然災害や戦争など、世界が揺れ動きました。

そんな時代、賛育会も拡大と変革期を迎えました。1983(昭和58)年、賛育会後援会が発足。1988(昭和63)年、創立70周年を迎え、『賛育会憲章』を制定。1991(平成3)年、老人保健施設「ゆたかの」を開設。同年、行政が建設した施設の運営

を受託する「公設民営」の賛育会初の施設となる中央区立特別養護老人ホーム「マイホームはるみ」の運営受託を皮切りに、1992(平成4)年に「はなみずきホーム」、1995年(平成7)、年「マイホーム新川」、1997(平成9)年「たちばなホーム」と要請に応え受託を進めました。また、賛育会としても1997(平成9)年に東京都町田市に特別養護老人ホーム「第二清風園」、2001(平成13)年「相良清風園」を開設し、地域の声に応え、働きの場を広げていきました。一方で、賛育会の職員数も約1,000名から2,000名近くに増えるなか、法人としての統一した処遇の実現や諸規定の整備など、組織としてのありようを整え、現在の基礎を築いたのでした。



社会福祉法人
賛育会

賛育会ロゴマーク
70周年の時に募集し
635点から選ばれた



地域ケア会議の 取り組み



地域ケア会議は、①高齢者個人に対する支援の充実(在宅生活の限界点の引き上げ)と、②それを支える社会基盤の整備(地域づくり)を同時に進めていく「地域包括ケアシステムの実現」に向けた手法の一つです。

高齢になっても、住み慣れた地域で尊厳のあるその人らしい生活が継続できるよう、市町村を中心に地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの実現が求められています。

地域ケア会議の実施に当たっては、それぞれの目的や機能に応じて、個別ケースや生活圏域レベルの地域課題を検討する会議は、地域包括支援センターが市町村と協力して開催し、地域づくりや政策形成等につなげる会議は市町村レベルで開催されます。地域の実情に応じた役割分担のもと、地域の関係者(行政、医療、介護、福祉、警察、消防、民生委員、町内会自治会等)が把握している課題を検討します。

会議の機能として、個別課題の解決・ネットワーク構築・地域課題の発見・地域づくり・資源開発・政策の形成の5つがあります。

各機能が効果的に関連し、地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制の推進を図ります。



アラカルト

第3回さんいくフェスタ

2017年10月開催
第3回さんいくフェスタでは500名を超えるご来場をいただきました。(会場:東京清風園【東京都墨田区】)

San-iku 通信 Vol.16 2018年 冬号
編集発行人:西原 良信
発行所:社会福祉法人 賛育会
東京都墨田区太平3-17-8 電話:03-3622-7614
印刷:(有)エースプリント



賛育会ホームページ <https://www.san-ikukai.or.jp/>



はなみずきホーム(東京都墨田区) 地域の皆様が ほっと一息できる場所



墨田区八広にある三輪里稻荷神社の社務所にて、認知症カフェを行っています。民生委員が自主運営し、はなみずき高齢者支援総合センターとみまもり相談室が

側面的にサポートしています。認知症高齢者や介護をしているご家族が集まり、参加者同士の交流や悩み相談、情報交換の場となっています。2015年10月から開始し、今では近隣の方だけでなく遠方から楽しみに足を運んでくださる方もいらっしゃいます。これからも地域の誰もがほっと一息できる場所を地域の皆さまと一緒に作っていきたいと思います。

Hello! ホスピタル 賛育会病院

Vol.16

総合案内に お尋ねください!

看護部では患者さんが安心して受診し“賛育会病院を受診してよかった”と思っていただくために何かできることはないか、みんなで知恵を出し合い考えました。その結果、『総合案内を充実させよう!』『困っている患者さんはいないか外来全体を巡回しよう!』ということになりました。病院を受診に来たものの、「外来の受付はどこに行けばいいのだろう?」「この症状は何科を受診すればいいのだろう?」と、外来の入り口で困ったり迷ったりしたことを多くの方が経験しているのではないかと思います。

始動は2017年8月から看護部長が交代で担当し、今では病院のQC活動(Quality Control:医療の質の向上)として医事課・総務課と協力して総合案内を担当しています。メンバーの思いは「当たり前」に神対応」というチーム名となりました。全ての病院職員が、その患者さんが必要とする対応を当たり前に行えるようになりたいという思いです。定期的な話し合いでは、総合案内の腕章を分かりやすくしてはどうか、休診の案内をタイムリーに出せないか、テーブルはいつもきれいにしたいよね 等々、様々な意見が出されます。すぐに実行できることもあれば、調整が必要なこともあります。日常の患者さんとの関わりの中から、新たな気づきも生まれ、患者さんへの思いを中心に確実に部署間の連携は深まっています。

どうぞ総合案内の腕章をつけた職員に、どんなことでも気軽にお尋ねください。

そしてこれからも、病院にいらした患者さんが“賛育会病院を受診して良かった”と思っていただけるために、私たちにできることは何か、常に問い続けていきたいと思えます。